

〈研究・調査報告〉

コンテンツを資源とした地域振興に関する研究 —「アジアテレビドラマカンファレンス in 能登」の仕組みと実践—

黄 仙 恵

【要旨】

本研究では、加賀・能登地域の伝統文化を観光資源として再生することを目的とし、2021年12月9日～11日に実施したドラマ『花嫁のれん』とのタイアップによるウェディングツーリズムモニターツアーの調査結果に基づき、「仕組み」と「特別な体験・経験」に着目する。さらに、その仕組みを探るための実践的な取り組みとして、2023年2月7日～9日に国際会議「アジアテレビドラマカンファレンス in 能登」を開催した。具体的には、アジアを中心としたドラマの脚本家、プロデューサー、関連団体などの参加者を対象に、能登半島のドラマ撮影候補地ツアーを実施した。この活動を通じて、持続可能な観光資源としての加賀・能登地域の伝統文化の可能性を検証する。加えて、石川県七尾市や能登半島広域観光協会と連携し、地域文化振興におけるコンテンツ発信の重要性についても探求する。これにより、グローバル化が進む現代における地域文化の振興とコンテンツ創造を模索し、コンテンツツーリズムの研究発展に貢献することが期待される。

キーワード：コンテンツツーリズム、仕組み、アジアテレビドラマカンファレンス in 能登、持続可能、観光資源

1. 研究の背景と目的

1.1 研究の背景

1.1.1 ドラマ『花嫁のれん』とドキュメンタリー『ドラマ「花嫁のれん」番外編～日本のおもてなしに挑戦』

本研究のきっかけは、大人の女性を中心に注目を集めた昼のテレビドラマ『花嫁のれん』（第1シリーズ全42話）にある¹。このドラマは2010年に放送が開始され、石川県金沢の老舗旅館を舞台に、アラフォー女性と加賀の最強女性による嫁姑の絶え間ない戦いを描いたホームドラマである。主演を務めた故・野際陽子さんが石川県津幡市の出身であり現地の方言を用いた演技にこだわった。また、野際さんの母親が和倉温泉「加賀屋」の女将と同級生であったことから、ドラマには加賀・能登地方の風習やしきたりが数多く取り入れられ、地域独自の人間

ドラマが展開された²。

2020年には、ドラマ『花嫁のれん』の番外編としてドキュメンタリー『ドラマ「花嫁のれん」番外編～日本のおもてなしに挑戦』の制作が始まった。このドキュメンタリーは、日本一の旅館と称される「加賀屋」で、6人の在留外国人が仲居修行に挑戦する様子を描いている。日本の伝統的な「おもてなし」が彼女たちにどのように映るのかを、10日間にわたる修行を通じて探った。この番組は、2021年9月東海テレビ・フジテレビ系全国ネットで放映された³。石川県の老舗旅館を舞台に、日本が世界に誇る「おもてなしの心」を描いたもので、「良き思い出は心の宝」という言葉が印象的であった。文化も性格も異なる6人の外国人女性が日本の伝統文化を学び、共感と発見を通して心に芽生える変化を映し出した作品である。

1.1.2 “生活文化観光”加賀・能登伝統の文化体験を「花嫁のれん」に学ぶウェディングツーリズム

2021年、能登半島広域観光協会は、ドラマ『花嫁のれん』を活用し、観光庁の「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」に採択された⁴。このプロジェクトは、地域の伝統文化に根ざした婚礼の風習や、それに関連する衣食住の豊かさを観光資源として実証することが期待され、『“生活文化観光”加賀・能登伝統の文化体験を「花嫁のれん」に学ぶウェディングツーリズム』という事業名となった⁵。

この事業では、花嫁のれんをテーマにした婚礼体験、加賀友禅の工房見学や体験、さらには加賀屋でのおもてなしを体験する女将塾などが行われた。これにより、物語を基盤にした体験型コンテンツを発掘・再創生し、観光客を引き寄せ、地域に持続可能な収入をもたらすことが目的であった。また、新型コロナウイルス感染症によって失われた観光需要の回復も期待された。

実証実験の一環として、QRコードを用いた映像視聴体験、ラベリングによる商品開発、ドラマ『花嫁のれん』と連動する周遊マップの作成の3つの施策が組み込まれた。さらに、地域の伝統文化に根ざした婚礼の風習や衣食住をテーマにしたツアーのデモンストレーションとして、一般参加者を募集し、モニターツアーが実施された。

1.1.3 ドラマ『花嫁のれん』とのタイアップによるウェディングツーリズムモニターツアーの調査

前述の実証実験の一環として、2021年12月9日～11日にウェディングツーリズムモニターツアーが実施された。このツアーでは、ドラマ『花嫁のれん』のロケ地である加賀・能登地域の伝統的な婚礼文化を観光資源として活用する可能性を探るため、参加者を募りアンケート調査を行った⁶。

調査結果からは、加賀・能登地域の伝統文化を観光資源として再創生する上で、ドラマとの連携が観光行動を誘発する効果があることが確認された。しかし、持続可能な観光資源として再創生するためには、ドラマの世界観を継続的に体験できる「仕組み」が必要であるという結

日本では、観光庁がMICE誘致および開催の推進役となっており、MICE誘致競争を牽引する都市の育成を目指して「グローバルMICE都市」を選定している。2021年4月時点では12都市が対象に選ばれており、「グローバルMICE都市・都市力強化対策本部」を設置して、都市間の取り組みや成功事例を共有、今後の戦略に関する意見交換を行っている⁹。この取り組みは、「持続可能な観光地域づくり」、「インバウンドの回復」、「国内交流拡大」の3つの戦略に基づいて進められており、2025年までにアジアNo.1の国際会議開催都市を目指している。

これらのMICEに関する取り組みや目標は、単に「外国人観光客を呼び込む」だけでなく、「インバウンド需要を効果的に拡大させ、根付かせる」ことを目的としている。特に国際的な人的交流を活発にし、インバウンド需要の着実な拡大を目指しており、2023年3月に閣議決定された「観光立国推進基本計画」と連動する形で、「新時代のインバウンド拡大アクションプラン」が策定された。この計画は、観光産業の持続的な発展を支援するための重要な施策である。

コンテンツツーリズムの研究について、増淵（2021）は、コンテンツツーリズムが本来はコンテンツに誘発された観光行動を考察する学問領域であると述べているが、その範囲は食文化や歴史などにも広げることができると示唆している。本稿では、MICEのアクションプランの一環として「文化芸術・スポーツ・自然分野」を取り上げ、本研究の対象である「アジアテレビドラマカンファレンス in 能登」がもたらす効果と意義について考察する。

「アジアテレビドラマカンファレンス in 能登」を通じた国際交流の場が、グローバル化の時代における地域文化の振興や新たなコンテンツの創造につながり、さらにその成果が観光資源としての価値を高めることが期待される。こうした活動はコンテンツツーリズム研究の発展にも寄与し、従来の枠を超えた多様な観点からの観光行動を促す新たな研究分野の拡大に貢献すると考えられる。

2.2 企業版ふるさと納税の活用

企業版ふるさと納税（正式名は「地方創生応援税制」）は、国が認定した地方公共団体の地方創生の取り組みに対して企業が寄附を行う際、法人関係税が税額控除される制度である¹⁰。この制度により、減税率が60%から90%に引き上げられ、企業の実質的な負担は10%に軽減されるため、企業は地域貢献と法人税軽減の両方の恩恵を享受できる。地域開発をさらに促進するために、この税額控除制度は2024年度まで5年間延長され、地域への資金流入が大幅に増加することが期待されている¹¹。

内閣府地方創生推進事務局が2023年8月に発表した「地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の令和4年度寄附実績について（概要）」によると、寄附金の最も多い用途は「しごと創生」で、次いで「まちづくり」、「地方への人の流れ」、「働き方改革」となっています。寄附実績は年々増加しており、2022年には寄附件数が8,390件（前年比70%増）、寄附金額が341.1億円に達した（図2）。このような状況は、地域の活性化に寄与する企業の意識の変化を反映していると考えられる。

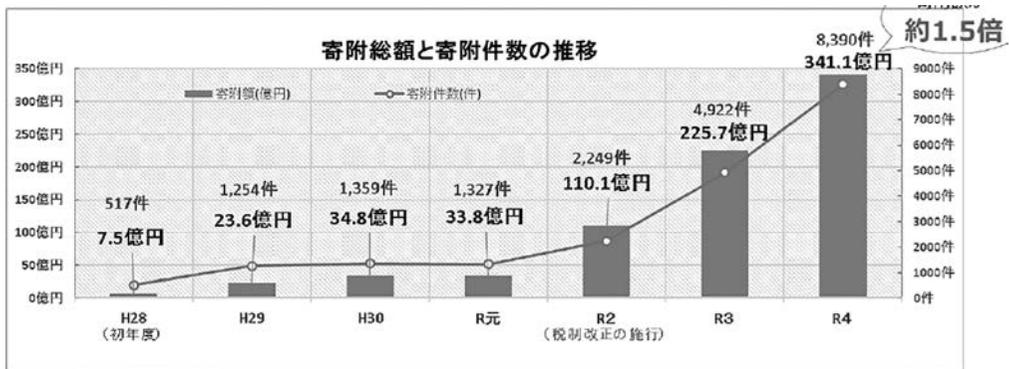


図2 企業版ふるさと納税の寄附総額と寄附件数の推移

出典：内閣府「地方創生応援税制の令和4年度寄附実績について（概要）」

この制度を利用することで、寄附を行った企業は地域社会の活力向上に寄与し、「社会貢献」を果たすだけではなく、自治体との新たな「パートナーシップ」を構築し、地域資源を活用した「新規事業」の展開などの機会を得ることができる。自治体にとっても、地方創生事業の充実・強化を図るための重要な資金源となる。

今回の研究対象である「アジアテレビドラマカンファレンス in 能登」の運営資金は、主にコンテンツ企業を中心に約19社からこの制度を通じて七尾市に寄附された。寄附総額は約7,400万円であり、それにより七尾市とのパートナーシップを構築し、コンテンツ産業における新たなビジネス展開の可能性を探ることを目的としている¹²。このような取り組みは、地域振興に寄与するだけでなく、企業にとっても新たな市場を開拓する良い機会となる。

3. コンテンツを資源とした地域振興に関する実証実験

3.1 「アジアテレビドラマカンファレンス in 能登」

3.1.1 概要とプログラム紹介

「アジアテレビドラマカンファレンス」は、韓国国際文化交流振興院（KOFICE）が2006年に立ち上げた国際会議であり、これまでに多くの映像クリエイターが参加してきた。第14回会議では、アジアだけでなく欧米を含む世界各国からの参加者が集まり、ドラマをはじめとするIP（知的財産）コンテンツ全体へと拡大した。この会議は、アジア唯一の国際会議としての地位を確立している¹³。

新型コロナウイルス感染症の影響で3年間中断されていた第15回会議は、2023年2月に日本主催として初めて開催された。本研究の対象となる「アジアテレビドラマカンファレンス in 能登」（以下、「ATDC in 能登」）は、日本のドラマやその他のIPコンテンツ産業の国際競争力を強化し、日本の文化安全保障問題に取り組む場として、2023年2月7日～9日までの間、能登で開催された。

「ATDC in 能登」は、世界中から集まる参加者に能登の魅力を発信してもらうことを目的としており、SNSやコンテンツ制作を通じてその影響力を高めることを狙いとしていた。また、国際会議の場で地球環境問題について議論を行い、日本が抱える環境問題への関心を高めることも重要な目的の一つであった。筆者は、「ATDC in 能登」の企画・運営に全面的に関与し、助言や指導、支援、司会を務めた。

「第15回ATDC in 能登」は、2023年2月7日～9日までの3日間、石川県七尾市和倉温泉の加賀屋姉妹館「あえの風」国際会議場で開催された。この会議には、日本、韓国、中国、タイ、台湾、インドネシア、フィリピン、マレーシアからの参加者が集まり、「地球時代のドラマをはじめとしたIPコンテンツ制作」をテーマに掲げた。参加者数は約250名で、うち学生ボランティアを47名含んでいる。3日間の会議プログラムは以下の通りである（表1）¹⁴。

表1 「第15回ATDC in 能登」プログラム

時間	2.7 (水)		2.8 (木)	2.9 (金)
9:00～9:30	参加者入国 及び チェックイン 及び 昼食		開会及び参加者紹介	能登半島 ドラマ撮影候補地 ツアー
9:30～10:00			Session1-1 韓国制作者	
10:00～10:30			Session1-2 日本制作者	
10:30～11:00			Session1-3 中国制作者	
11:00～11:30			制作者セッション	
11:30～12:00			ディスカッション	
12:00～12:30			休憩	
12:30～13:00				
13:00～13:30				
13:30～14:00				
14:00～14:30	BtoB	セミナー	休憩	
14:30～15:00				
15:00～15:30				
15:30～16:00	スペシャル ピッチング①		Session2-1 韓国作家	参加者帰国
16:00～16:30			Session2-2 日本作家	
16:30～17:00			Session2-3 中国作家	
17:00～17:30			作家セッション	
17:30～18:00			ディスカッション	
18:00～18:30	オープニング セレモニー	休憩		
18:30～19:00	キーノート スピーチ			
19:00～19:30	ウエルカム パーティー			
20:00～20:30	サスティナブル パーティー			

出典：第15回アジアテレビドラマカンファレンス事業報告書

「ATDC in 能登」の特筆すべき点は、プログラム開始前に開催されたプレ企画「地球温暖化セミナー」である。このセミナーは、会議の統一テーマである「地球時代のドラマをはじめとしたIPコンテンツ製作」に関連して、地球の持続可能性を意識した内容で構成された。俳優の羽田美智子氏の司会で、NPO法人「環境・持続社会研究センター（JACSSES）」の発表で開催した。このセミナーでは、国内外のコンテンツクリエイターを対象に、地域の気候変動の現状や対策、日本への影響、さらに国際的な枠組みについての情報が共有された。特にSDGs（持続可能な開発目標）に注目し、参加者に実践を呼びかける内容となっていた（図3）。このように、セミナーを通じて地球温暖化に対する意識を高め、コンテンツ制作における持続可能性を考慮することが、参加者の今後の活動において重要なテーマとして位置づけられた。



図3 「第15回アジアテレビドラマカンファレンス in 能登」の様子

出典：2023年2月著者撮影

3.1.2 能登半島のドラマ撮影候補地ツアー実施

表1のとおり、国際会議の最後日である2月9日に能登半島のドラマ撮影候補地ツアーが実施された。このツアーは、2021年に行った実証実験「ドラマ『花嫁のれん』とタイアップしたウェディングツーリズムのモニターツアー」の結果をもとに、七尾市と能登半島広域観光協会の協力を得て開発された。運営は東武トップツアーズが担当した。

・ 訪問先

- 鰯目漁港：ドラマ『花嫁のれん』のロケ地
- 能登島荘：伝統的な宿泊施設
- 一本杉通り：鳥居醤油、白井昆布店、高澤ろうそくなどの店舗、ドラマ『花嫁のれん』のロケ地

- 花嫁のれん館：ドラマに関連する施設
- 海が見える茶屋：絶景を楽しむ場所
- 青林寺：歴史的な寺院
- お祭り会館：地域の祭り文化を紹介する施設
- 能登演劇堂：日本で唯一、自然と舞台が一体となった演劇専用ホール

このツアーでは、能登半島の自然、歴史、伝統文化に触れる機会が提供され、また、能登半島の食文化を体験するため、昼食は地元の食材を使用した食祭市場での提供を指定した（図4）。



図4 能登半島のドラマ撮影候補地ツアーの様子

出典：第15回アジアテレビドラマカンファレンス事業報告書

能登半島のドラマ撮影候補地ツアーは、能登半島の自然、伝統、歴史、食などを新たな観光資源として再生できる可能性を探ることを目的としている。このツアーは、コンテンツ産業に携わるクリエイターに視察の機会を提供し、彼らのコンテンツ制作のインスピレーションとなることを目指している。また、加賀・能登地域の自治体や観光関係者を対象に、観光産業の現状や劇場との連携による観光資源の活用について意見交換会を開催し、その際に出された課題を明らかにした。これにより、地域の観光振興に向けた具体的な提案や方策が導き出されることを期待する¹⁵。

このような取り組みは、地域文化の発信や観光資源の多様化に寄与し、能登半島の観光産業全体の活性化につながるだろう。

3.1.3 座談会「文化と地域振興」

文化庁が、2012年12月閣議決定した「文化芸術の振興に関する基本的な方針」において、地域文化の発展は重要な政策課題として位置付けられている。特に、地域住民の文化芸術活動の充実と地域活性化の両面から、地域の「文化力」を結集することが施策の主な目的とされている¹⁶。

本研究の対象地域である加賀・能登においては、地域固有の文化を動員し、地域文化の振興を図ることが重要である。黄（2022）によれば、地域の現状に対する対応策として、以下の点が提案されている。

- ・地域固有の文化の活用：例えば、婚礼文化などの伝統的な文化資源を観光や地域振興に活かすことが重要である。
- ・自治体と民間事業者の連携：地域振興の機会を創出するためには、自治体と民間の協力が不可欠である。
- ・持続可能な観光資源の再構築：ドラマ『花嫁のれん』のロケ地としての認知度向上を踏まえ、新たな観光資源を持続的に活用するための仕組みを構築する必要がある。

これらの課題を踏まえ、加賀・能登地域の発展に関する自治体の政策を議論するための座談会が開催された。この座談会は、「ATDC in 能登」の主催者である七尾市の茶谷義隆市長と石川県の馳浩知事が招かれ、「加賀・能登独自の文化」、「観光資源の継承方法」、「国際会議との連携」について議論が行われた¹⁷。これにより、加賀・能登地域の文化振興と観光資源の活用についての具体的な方策が議論され、地域振興への道筋が示されることが期待された。

3.2 実証実験の結果と課題

本研究では、持続可能な観光資源としての加賀・能登地域の伝統文化の可能性を探るため、実践的な取り組みとして国際会議「第15回ATDC in 能登」を企画・開催した。アジアを中心としたドラマ脚本家、プロデューサー、関係団体の参加を得て、能登半島のドラマ撮影候補地の調査も実施した。さらに、国内外の参加者にインタビューやヒアリング調査を行い、収集した意見をもとに成果と課題をまとめた。

ツアーに参加した韓国ドラマ製作者協会の法人会員からは、「能登地域をドラマのロケ地として具体的に候補に挙げてほしい」、「2025年に放送されるドラマのロケ地として能登地域を使用したい」、「能登の自然美や和倉温泉街の風景と、作品の世界観がつながるようなストーリーを作りたい」といった意見が寄せられた。また、青林寺やお祭り会館、能登演劇堂など、能登独自の文化との出会いも好評で、和倉温泉周辺の小道や懐かしい風景がロケーションとして評価され、観光資源として作品に取り入れたいとの声もあった。一方で、情報番組の国際共同制作を行っている日本企業では、海外の共同制作会社と観光情報を共有し、能登地域を中心に撮影を検討したいとして、能登の自然や伝統文化に関する情報収集を続けている。

ただし、能登半島で撮影を行う際の地域住民や自治体の協力についての課題も指摘された。

撮影に対する支援体制は国や地域によって異なり、特にテレビドラマや映画の撮影では行政の協力が得られないと、撮影を断念せざるを得ないケースも少なくない。交通規制による住民への配慮、撮影場所に対する撮影許可や著作権の調整、制作費の支援など、ロケ地誘致に向けた支援策の整備が引き続き課題である。

また、「第15回ATDC in 能登」では企業版ふるさと納税を活用し、寄附した企業に対して、能登半島の地域資源を活用した新事業展開の機会が提供された。寄附企業は出典ブースやピッチングを行い、事業のプロモーションと共に新たなビジネス機会の創出を試みた。ロート製菓、U-NEXT、DOLBY JAPANや地元企業のスギヨ、別所哲也ショートフィルムフェスティバルなどが参加し、七尾市とのパートナーシップを積極的に構築し、新事業の成長を目指した。

さらに、「ATDC in 能登」は、国際会議であると同時に、能登を世界に紹介し、新たな観光資源を創出するための有効な機会でもあった。座談会では石川県の馳知事が、七尾市など都市部以外の地域からも発信できる産業として、ドラマ制作の推進が必要であると語った。また、七尾市の茶谷市長は、七尾市を舞台としたアニメ『君は放課後インソムニア』を紹介し、能登の日常風景を活かした作品が多く観光客を呼び込んでいることを強調した。

このように、グローバル化の時代において、地域文化の振興やコンテンツ創造の可能性を探る取り組みは有望であり、コンテンツツーリズムの研究領域を広げる一助となる。今後もさらなる実証研究が期待される。

4. おわりに

本研究では、加賀・能登地域の伝統文化を観光資源として再生するための実践的な取り組みとして、国際会議「ATDC in 能登」を実施した。この実践的試みから導き出された結論は、地域文化の振興におけるコンテンツクリエイターへの情報発信の重要性であるという点である。コンテンツツーリズムの観点からは、企画段階から観光行動を誘発するコンテンツの開発が必要である。今回参加したドラマの脚本家、プロデューサー、関連団体などは、コンテンツの主な制作者であり、撮影候補地を巡るツアー企画が効果的であった。コンテンツと地域文化を結びつけることで、新たな効果や価値が生まれる可能性があり、ロケ地や舞台への訪問を通じた地域探索といった消費形態も期待できる。

【注】

- 1 東海テレビ『花嫁のれん』<https://www.tokai-tv.com/hanayome/> 2024年10月23日閲覧.
- 2 和倉温泉「加賀屋」<https://www.kagaya.co.jp/> 2024年10月23日閲覧.
- 3 東海テレビドキュメンタリー『ドラマ「花嫁のれん」番外編～日本のおもてなしに挑戦』<https://www.tokai-tv.com/hanayome2021/> 2024年10月23日閲覧.

- 4 観光庁 https://www.mlit.go.jp/kankocho/topics08_000191.html 2024年10月23日閲覧.
- 5 能登半島広域観光協会 <https://notohantou.com/weddingtourism/> 2024年10月23日閲覧.
- 6 モニターツアー参加者募集は、2021年10月15日から11月5日まで能登半島広域観光協会のホームページにて告知が行われ、総15名が選定された。モニターツアーのアンケートは総12回答が集計された。
- 7 黄仙恵 (2022) 「伝統文化とコンテンツとの相乗効果によるコンテンツツーリズムの可能性—ドラマ『花嫁のれん』を活かした観光資源の再創造—」コンテンツツーリズム学会論文集第9巻、pp.2-11.
- 8 観光庁「MICEの誘致・開催の推進」<https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/mice.html#igi> 2024年10月23日閲覧.
- 9 観光庁「グローバルMICE都市・コンベンションビューロー支援都市」https://www.mlit.go.jp/kankocho/page03_000049.html 2024年10月23日閲覧.
- 10 企業版ふるさと納税サイト「ふるコネ」<https://furu-con.jp/info/furusato> 2024年10月23日閲覧.
- 11 内閣府地方創生サイト https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/kigyou_furusato.html 2024年10月23日閲覧.
- 12 「アジアテレビドラマカンファレンス in 能登」<https://www.atdc2023.org/> 2024年10月23日閲覧.
- 13 第15回アジアテレビドラマカンファレンス事業報告 https://www.atp.or.jp/overseas/pdf/atdc_15th_report.pdf 2024年10月23日閲覧.
- 14 「アジアテレビドラマカンファレンス in 能登」<https://www.atdc2023.org/> 2025年2月19日閲覧.
- 15 黄仙恵 (2022) 「伝統文化とコンテンツとの相乗効果によるコンテンツツーリズムの可能性—ドラマ『花嫁のれん』を活かした観光資源の再創造—」コンテンツツーリズム学会論文集第9巻、pp.2-11.
- 16 文化庁の文化政策部会（第11回）の配布資料「地域文化振興のための方策に関する主な視点」<https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/seisaku/02/11/shiten.html> 2024年10月23日閲覧.
- 17 関連記事：<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kanazawa/20230809/3020016111.html> (NHK 石川県、2023年8月9日報道)

【参考文献】

- 国土交通省総合政策局、経済産業省商務情報政策局、文化庁文化部（2005）「映像等コンテンツの制作・活用による地域振興の在り方に関する調査」.
- 増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと』彩流社.
- 岡本健（2012）『コンテンツツーリズム研究の枠組みと可能性』福村出版.
- コンテンツツーリズム学会（2014）『コンテンツツーリズム入門』古今書院.
- 文化庁（2018）「地域文化振興のための方策に関する主な視点」.

- 増淵敏之・安田亘宏・岩崎達也（2021）『地域は物語で10倍人が集まる』生産性出版.
- 山村高淑・フィリップ・シートン（2021）『コンテンツツーリズム メディアを横断するコンテンツと越境するファンダム』北海道大学出版会.
- 黄仙恵（2022）「伝統文化とコンテンツとの相乗効果によるコンテンツツーリズムの可能性—ドラマ『花嫁のれん』を活かした観光資源の再創造—」コンテンツツーリズム学会論文集第9巻.
- 観光庁（2023）「MICEの意義」.
- 内閣府（2023）「地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の令和4年度寄附実績について（概要）」.